

研究・調査報告書

報告書番号	担当
30	滋賀医科大学社会医学講座福祉保健医学部門
題名 (原題/訳)	
Prospective study of alcohol consumption and risk of oral premalignant lesions in men. 男性におけるアルコール消費と oral premalignant lesions の前向き研究	
執筆者	
Maserejian NN, Joshipura KJ, Rosner BA, Giovannucci E, Zavras AI.	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
Cancer Epidemiol Biomarkers Prev. 2006;15:774-81	
キーワード	
アルコール、oral premalignant lesions(OPL)、喫煙	
要 旨	
<p>近年、患者対照研究で喫煙者において、アルコールが oral premalignant lesions(OPL)のリスクであることが示唆されているが、アルコールと OPL の独立した関連は明らかではない。われわれは前向きにアルコール消費と OPL 発生との関連を評価した。対象者は Health Professional Follow-up Study における男性 41,458 人である。アルコール消費量は 4 年ごとに妥当性の検証された食事摂取調査票を使用して評価した。われわれは医学記録のレビュー(193 例)により 1986 年から 2002 年に発生した OPL イベントを臨床的、組織病理的に診断・確定した。多変量調整された OPL の相対危険が Cox 比例ハザードモデルで算出された。喫煙および他変数を詳細に調整したもとの相対危険は非飲酒者と比較すると、飲酒者 0.1-14.9g/日で 1.7(0.9-3.2)、15-29.9g/日で 2.9(1.5-5.6)、30g/日で 2.5(1.3-5.1)であった。約一杯(12.5g)の飲酒の追加によって 22%のリスク増加($p < 0.001$)が観察された。この関連は飲料の種類、頻度、食事との消費によらなかった。Oral epithelial dysplasia に限定した場合も結果は同様であった。過去喫煙、現在喫煙の対象者と同様、非喫煙者においても、アルコールは OPL のリスクを増加させた。アルコールと喫煙との交互作用は相加的な作用以上であることは明らかであった。飲料の種類、飲酒パターンによらず、アルコールは OPL の独立した危険因子である。アルコール消費の減少を推奨することにより、非喫煙、喫煙ともに OPL の発生を減少させる可能性がある。</p>	